

<今月の紙面>

- ・協会・連盟総会での主催者挨拶 (2面)
- ・「食料・農業 知っておきたい話」35- (3面)
- ・6割「料理をするのが楽しい」 (4面)
- ・キャベツ肥料制限苗 移植適期幅拡大 (5面)
- ・泌乳中後期 稲発酵粗飼料4割給与 (6面)
- ・15年畜産統計 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
公益社団法人全国開拓振興協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
TEL 03-3586-5843
FAX 03-3586-5846
ホームページ <http://www.kaitakusya.or.jp>
全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集



①振興協会第3回定時総会、②連盟第70回通常総会

振興協会・連盟総会を開催



安藤新理事

次に、報告事項2||15
年度事業計画及び予算の
件、報告事項3||資金調

冒頭の挨拶で櫻井徳一
会長は、「農業情勢が厳
しい状況の中、意欲的に
営農に取り組んでいる開
拓農家の持続的発展を図
り、国民・消費者に安心
・安全な食料を供給する
ことが、一層重要な課
題となっている」として、
案どおり全員賛成で決定

冒頭の挨拶で櫻井徳一
会長は、「農業情勢が厳
しい状況の中、意欲的に
営農に取り組んでいる開
拓農家の持続的発展を図
り、国民・消費者に安心
・安全な食料を供給する
ことが、一層重要な課
題となっている」として、
案どおり全員賛成で決定

続いて、会長が議長と
承され、議案は原案ども
なり、議事に移った。ま
ず、報告事項1||14年度
事業報告の件と第1号議
案||14年度の事業報告の
附属明細書等の承認の件
は関連があるため一括上
程され、坪幸一監事の監
査報告を受けて、報告事
項は了承され、議案は原
案どおり全員賛成で決定

上程され、報告事項は了
承され、議案は原案ども

新理事に安藤氏選任

振興協会

閉会した。

日本農業経営大学校 学生全員が就農めざす

公益社団法人に移行し

て3年目となる15年度
は、開拓者支援事業とし

て、①研修事業②「開拓
振興事業」の発行③開拓農
業の収集・公開等の調査研

究事業の4事業を実施

達及び重要な設備投資の
見込みの件、第2号議案

||15年度役員報酬決定の
件、第3号議案15年度監

事報酬の決定の件が一括

する。

①では、開拓農に取
り組んでいる開拓者など
の資質向上や営農推進を
図るための講演会を九州
で開催する。また、昨年
は休止した海外研修を才
セニアア地域から研修国
を選定して実施。さらに、
全国開拓青年・女性研修
会を毎年開拓者連盟お

り組んでいる開拓者など
の資質向上や営農推進を
図るための講演会を九州
で開催する。また、昨年
は休止した海外研修を才
セニアア地域から研修国
を選定して実施。さらに、
全国開拓青年・女性研修
会を毎年開拓者連盟お

り組んでいる開拓者など
の資質向上や営農推進を
図るための講演会を九州
で開催する。また、昨年
は休止した海外研修を才
セニアア地域から研修国
を選定して実施。さらに、
全国開拓青年・女性研修
会を毎年開拓者連盟お

り組んでいる開拓者など
の資質向上や営農推進を
図るための講演会を九州
で開催する。また、昨年
は休止した海外研修を才
セニアア地域から研修国
を選定して実施。さらに、
全国開拓青年・女性研修
会を毎年開拓者連盟お

畜産・酪農経営安定対策を決定

連盟

について、第5号議案||14
年度会費の額及び徴収
方法決定についてーが一
括上程され、これらにつ
いても、全員賛成で原案

どおり決定した。
その後、鳥取県開拓者
連盟の田中喬委員長の朗
讀による「日本農業が果
たす食料安定供給と地域
社会の持続的発展や多面
的機能を維持し、次代を
担う若者が夢を持てる農
業を構築するため、運動
を展開する」などとした
宣言案が採択され、閉会

緊急アピールでは、米
の即時脱退を求める大学
の抗議行動である「TPP交渉
の即時脱退を求める大学
の抗議行動」や「TPPに
反対する弁護士ネットワ
ーク」、主婦連合会は6
月26日、「国会決議違反、
民意を無視したTPP
『合意』は許されない！」
とする緊急アピールを発
表した。

TPP国会決議守れ 大学教員の会 緊急アピール

TPP（環太平洋連携
協定）交渉は、妥結に不
可欠とされていた米国の
通商交渉の権限を条件付
きで政府に一任する「T
PA（貿易促進権限法）」
の成立によって加速し、
最終局面を迎つつあ
る。

「TPP参加交渉から
の即時脱退を求める大学
の抗議行動」や「TPPに
反対する弁護士ネットワ
ーク」、主婦連合会は6
月26日、「国会決議違反、
民意を無視したTPP
『合意』は許されない！」
とする緊急アピールを発
表した。

全日本開拓者連盟は、
振興協会の定時総会・説
明会後に第70回通常総会
を開催し、15年度運動方
針・同予算など5議案を
承認、決定した。

冒頭の挨拶で西谷悟郎
委員長は、「政府は、新
たな食料・農業・農村基
本計画を策定し、国内食
料自給率向上による食料
安全保障の確立を提言す
る一方で、TPPでは必
要な情報開示もなされず
早期の交渉合意をめざし
ており、拙速な妥協は断
じて容認できるものでは
ない」と述べた。

続いて、各政党・友誼
団体からのメッセージを
披露後、議長に薩摩開拓
農協の牧原保代表理事組
合長を選出。議事録署名
について、第4号議案||15
年度運動方針について、第
3号議案||15年度収支予
算について、第4号議案||15
年度運動方針では、引き続
き国内農畜産業を守ること
を基本に、「開拓農業を守るこ

本紙は無償で提供しています。



感を得にくいのが実情です。

最近の農業情勢についてみると、特に畜産情勢では畜産物価格は好調ですが、大幅な円安による輸入穀物原料の高騰で、中山間地域など厳しい立地条件の下で畜産・配合飼料等の生産資材が

胆な金融緩和」と「機動的な財政出

「運動」などで円安が大幅に進み、株価も大幅に上昇し、景気は緩やかに回復傾向にあります。

一方、昨年4月からの消費増税もあって物価上昇に実質賃金が追いついでいない状況であり、国民としては景気回復の実

西谷連盟委員長の総会挨拶

昨日の国内経済は、消費増税後、消費動向の停滞から実質GDPは減少し、アベノミクスの成長戦略の実効性が問われる状況にあります。

TPP国会決議順守と情報開示を

一方、国内

農畜産業は、慢性的な生産資材の高騰等、依然として経営不安は払拭されず、不透明感を増しておきます。

本年、政府は「新たな食料・農業・農村基本計画」を策定し、地域農業健全な農業経営の確立と

のヤマ場となり、重大な局面を迎えることになります。

当協会といたしましては、運営の簡素化、合理化を徹底するとともに、これまで実施してきた事業の実施状況および成果を考慮し、開拓農振興事業などを着実に実施する事業計画を立て、開拓農家の持続的発展に資することとしております。

運営合理化徹底し開拓営農を支援

このように

各事業を円滑に運営するためには、会員お

よび関係機関、団体の協力のもとに、取り進めて

するとともに、開拓営農の持続的発展を図り、國民・消費者に安心・安全な食料の供給を図ること

が、一層重要な課題となることがあります。

また、TPP交渉は、米国のTPA（貿易促進権限）法が成立すると次回の閣僚会合が全体合意

される開拓農家の交流を促進するとともに、開拓営農の活力創造を提起し、国内食料自給率向上による食料安全保障の確立を提言する一方で、TPPでは必要な情報開示もなさ

ります。

さらに、年明け以降急速に進行しつつあるTPP交渉は、日米主導のもと本年夏までの早期妥協は断じて容認できるもの

ではありません。

西谷連盟委員長の総会挨拶

西谷連盟委員長の総会挨拶

昨日の国内経済は、消費増税後、消費動向の停

止み、株価も大幅に上昇しており、新マルキンの発動が続くなど畜産経営は非常に厳しい状況となつております。

一方、昨年4月から

消費増税もあって物価上昇に実質賃金が追いついでいない状況であり、国民としては景気回復の実

感を得にくいのが実情で

ます。

政府には、譲歩することなく、改めて国会決議

となく、改めて国会決議の情報開示を強く求める

ことです。

最近の農業情勢についてみると、特に畜産情勢では畜産物価格は好調ですが、大幅な円安による輸入穀物原料の高騰で、中山間地域など厳しい立地条件の下で畜産・配合飼料等の生産資材が

高騰しています。

政府には、譲歩することなく、改めて国会決議の情報開示を強く求める

生乳流通・取引体制検討の欠落点

東京大学教授 鈴木宣弘氏

最大の問題にメス
入れず

15年7月2日の生乳流
通・取引体制の自民党の
取組案を見て、正直驚い
た。肝心の問題が欠落し
ているからだ。

カーブス酪農協の取引の
改善のみを議論している
が、最大の問題は、乳業
メーカーv.s酪農協の取
引の改善ではなく、スー
パーv.s乳業メーカーの
取引だからだ。

乳業メーカーv.s酪農
協の取引の改善により酪
農家の手取り乳価の向上
を図ることも、もちろん
重要ではあるが、乳価が
上がらないのは、メーク
ーではなく、小売の市場
支配力が大きいためであ
り、この点を議論せずし
て、乳価の改善はありえ
ない。むしろ、乳業メー
カーブス酪農協の取引の
改善により酪農家の手取
りは、市場に何らかの不自
然な影響を及ぼす。

15年7月2日の生乳流
通・取引体制の自民党の
取組案を見て、正直驚い
た。肝心の問題が欠落し
ているからだ。

乳業メー
カーブス酪農協の取引の
改善のみを議論している
が、最大の問題は、乳業
メーカーv.s酪農協の取
引の改善ではなく、スー
パーv.s乳業メーカーの
取引だからだ。

我が国では、07~08年
の飼料・肥料・燃料等の
高騰によるコストの急上
昇にもかかわらず、乳価
が上がり、酪農経営が
苦況に陥った。諸外国で
は、飼料危機当時にも、
乳価上昇による調整が非
常に迅速に機能した。農
水省の調べでは、07年6
ヶ月段階の生産者乳価
は、米国が前年比67.3
%高の55.5円、豪州が
29.9%高の43円、英國
が9.4%高の46.3円
というように、軒並み上
昇したのに、我が国でそ
れが適切に働かないの
は、市場に何らかの不自
然な影響を及ぼす。

我が国では、大型小売
店同士の食料品の安売り
競争は激しいが、そのた
め、小売価格の引き上げ
が難しく、そのしわ寄せ
の兆候が現れたら、価格
上昇が生じて、必要な需
要在満たす供給が確保さ
れるというのが、価格に
よる需給の調整メカニズム
が必要

我が国では、大型小売
店同士の食料品の安売り
競争は激しいが、そのた
め、小売価格の引き上げ
が難しく、そのしわ寄せ
の兆候が現れたら、価格
上昇が生じて、必要な需
要在満たす供給が確保さ
れるというのが、価格に
よる需給の調整メカニズム
が必要

今回の我が国の生乳取
引改善策の検討では、民
間ベースの改善努力のみ
が議論されているが、そ
れだけでは解決できない
問題だという認識を持
た。そこで、飼料高騰な
どで取引乳価がコストを
カバしきれない事態に備
えて、最低限の「乳代」
のとして行われている。

今回の我が国の生乳取
引改善策の検討では、民
間ベースの改善努力のみ
が議論されているが、そ
れだけでは解決できない
問題だという認識を持
た。そこで、飼料高騰な
どで取引乳価がコストを
カバしきれない事態に備
えて、最低限の「乳代」
のとして行われている。

全国研修会は兵庫県下で実施

11月17~19日、開拓3団体共催で

青年部長は豊嶋健さん

東プロック、栃木・酪農、
同荒木和宏(九州プロッ
ク、熊本・肉牛)の四氏

に決定。西谷委員長から

それに委嘱状が手渡

された。

7月後半から9月にか

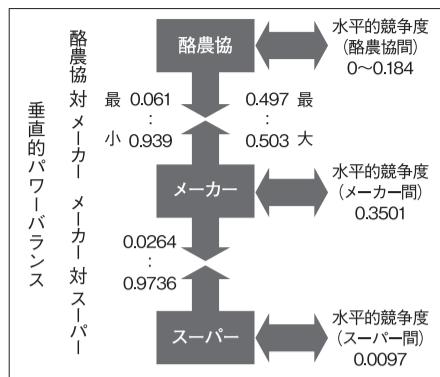
けて予定されている、開

拓組織および関係機関の

行事は次のとおり。

開拓組織の動き

図 日本における酪農協・メーカー・スーパー間の取引交渉力バランス



注: 垂直的には、0に近いほど劣位、1に近いほど優位な取引交渉力をもつこと、水平的には、0に近いほど競争的、1に近いほど独占に近いことを意味する。

メスの取引交渉力は、メーカーv.s酪農協の取引の改善のみを議論しているが、最大の問題は、乳業メーカーv.s酪農協の取引の改善ではなく、スーパーv.s乳業メーカーの取引だからだ。我が国では、07~08年の飼料・肥料・燃料等の高騰によるコストの急上昇にもかかわらず、乳価が上がり、酪農経営が苦況に陥った。諸外国では、飼料危機当時にも、乳価上昇による調整が非常に迅速に機能した。農水省の調べでは、07年6ヶ月段階の生産者乳価は、米国が前年比67.3%高の55.5円、豪州が29.9%高の43円、英國が9.4%高の46.3円といふように、軒並み上昇したのに、我が国でそれが適切に働くかないのが、市場に何らかの不自然な影響を及ぼす。

米国では、ミルク・マーケティング・オーダー(FMMO)制度の下、政府が、乳製品市況から逆算した加工原料乳価をメークーの最低支払い義務として設定し、それによって、乳価として設定し、その結果、全米2600の郡で「飲用プレミアム」を

支払われる。これが米国で可能な背景には、米国政府が余剰乳製品の買上げ制度を維持し、国内外への援助物資などによる最終的販路を準備している。

また、全国の農業生産関連事業による年間総販売金額は1兆8253億円で、前年度に比べ4.6%増加した。業態別では、農業生産関連事業(農家レストラン、農家民宿等)は443億円(同2.4%)で、14.6%増加した。

全開連人事 (6月30日付)
退職 早川幸佑(西日本本支所)、原田美咲(事業推進部)
▽管理部付・岩手県畜産農協出向(東日本本支所)
岩手事業所支所長代理(7月1日付)
新田和所) 高田瞬

(6月9日付)
本支所)、原田美咲(事業推進部)
▽事業推進部(西日本本支所) 高田瞬

ひとり暮らし男性の6割惣菜利用

野菜、サラダもよく購入

どんなときに惣菜を利用するか

	20代(n=47)	30代(n=53)	40代(n=71)	50代(n=93)	60代(n=112)
1位	ひとりの食事のとき 36%	仕事や外出などで手作りする時間がないとき 32%	タイムセールなどで価格が割引されていたとき 34%	タイムセールなどで価格が割引されていたとき 38%	店頭で見ておいしそうだったとき 40%
2位	仕事や外出などで手作りする時間がないとき 30%	自分では作れないものを食べたいとき 30%	仕事や外出などで手作りする時間がないとき 32%	作るよりも惣菜を買った方が安上がりなとき／ひとりの食事のとき 33%	自分では作れないものを食べたとき 39%
3位	お腹がすいて、すぐ食べたいとき 23%	店頭で見ておいしそうだったとき 28%	お腹がすいて、すぐ食べたいとき 31%		タイムセールなどで価格が割引されていたとき／作るよりも惣菜を買った方が安上がりなとき 31%
4位	献立を考えることに悩んだとき／タイムセールなどで価格が割引されたいたとき 21%	ひとりの食事のとき 26%	店頭で見ておいしそうだったとき 28%	店頭で見ておいしそうだったとき 32%	
5位		お腹がすいて、すぐ食べたいとき 25%	ひとりの食事のとき 27%	自分では作れないものを食べたいとき 27%	献立に一品追加したいとき 28%

(株)はこのほど、全国の20～60代のひとり暮らしの男性470人を対象に実施した「ひとり暮らしをしている男性の惣菜利用に関する調査」の結果を公表した。それによると、ひとり暮らしをしている男性の約6割が週1回以上惣菜を購入していることがわかった。

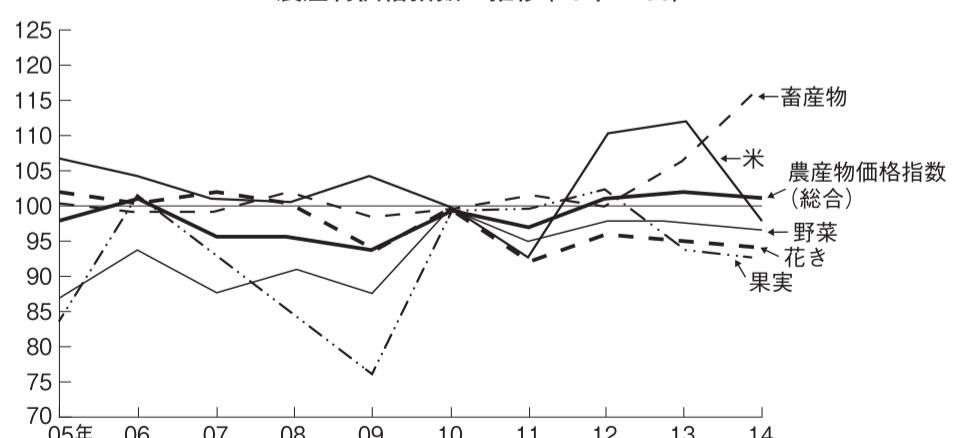
どの程度の頻度で調理をしているか聞いたところ、全体では「ほぼ毎日」が48%ともっとも高く、次いで「週数回」が26%などとなつた。年代別にみると、「ほぼ毎日」の割合は60代が71%でもつとも高く、次いで50代が

48歳などとなり、年代が低くなるほど調理頻度が減っていることがわかつた。

惣菜の購入頻度を聞いたところ、全体で「週に2～3回程度」が30%で最もとも高くなり、「週1回以上」「ほぼ毎日」「週に4～5回程度」「週に2～3回程度」「週に1回程度」の合計)の割合は62%となつた。平均購入回数は週に1・65回で、年代別みると20代、50代が週に1・85回でもつとも多かった。惣菜購入者のスープ、デパート、コンビニでの平均購入回数は、それぞれ週に1・99回、0・16回、1

・05回であった。よく買う惣菜メニューでは「コロッケ」が30割、「コンビニかつ」が30割、「野菜サラダ」が36割ともっとも高かった。スーパーとデパートでは揚げ物が上位を占めたが、スーパーでは「野菜サラダ」が3位に入り、デパートでは揚サラダ、中華なども入っており、幅広いメニューが購入されていた。

スーパー、デパート、コンビニで惣菜を買う理由を聞いたところ、スーパーは「価格が安い」が45割、デパートは「おい



9・7で、肉用子牛の価格が上昇したことなどにより、前年に比べて12・5%上昇。飼料は1-2-8で、配合飼料の価格が上昇したことなどにより、前年に比べて2・5%上昇。光熱動力は1-2-6・5で、重油の価格が上昇したことなどにより、前年に比べて5・4%上昇した。

日本生協連はこのほど、週に1日以上自宅で料理をする全国の20・49歳の男女1000名を対象に実施した「料理とお弁当に関する調査」の結果を公表した。それによると、6割半の人が料理をするのは楽しいと回答し、20・30代男性の3割半が自分で用意の弁当を週に1日以上用意していることがわかった。

いた性年世代における、いずれの年代においても、女性より男性の方が樂しく、「あてはまる」の割合高く、男性の方が樂しく、ながら料理に取り組んでいる様子がうかがえた。特に、20、30代男性では、それぞれ7割を超えて、定期的に料理をしていることが分かった。

食費の節約についていたところ、食費の節約のために料理をしていて、「あてはまる」が63.2%と、定期的に料理

していき人の多くは、費節約を最大の目的として料理をしていることがわかった。月々の食費が1人当たり1万円以内で抑えているに「あてはまる」が28・9%。食材費節約のために家庭菜園をしているに「あてはまる」と回答した割合は16・8%で、食費節約のために自家栽培を行っているのは少ない結果となつた。

家族用の弁当を作る度を聞いたところ、「ほぼ毎日」から「週に1回

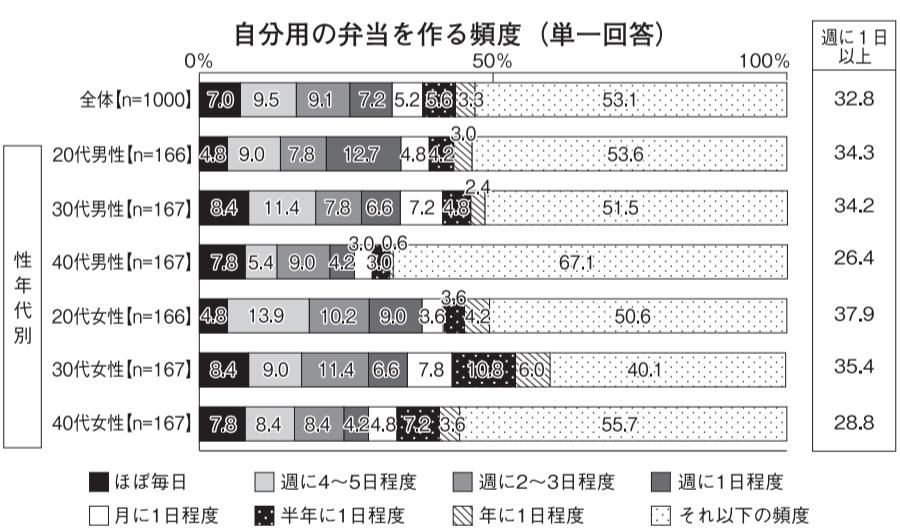
自分用の弁当を作る頻度を聞いたところ、「週に1日以上」が3割強(32.8%)を占めた。性年代別にみると、男性の「週に1日以上」の割合は、20代がそれぞれ33.3%、30代が32.2%、40代は26.4%とった。20、30代男性では、3人に1人が自分で弁当を作り、持つていく「弁当男子」であることが明らかとなつた。弁当に入れる頻度が高

占めた。夏本番が近づき、夏テをした際に食べるユーワーを聞いたところ、「素麺などのサラット」が69・1%で、ニユーワー派が69・1%で、多數派で、「肉などのタミナメニユーワー派」は9%だった。夏バーベキューをしやすい別にみると、バテをしやすい人はラツとスニユーワー派が8割となり、食べやしない食事を好む傾向がある。

夏バヘニ、つゝとスのうの30はすが75サを

自分用の弁当を作る頻度（単一回答）

グループ	頻度	割合
全体 [n=1000]	7.0	7.2%
	9.5	9.1%
20代男性 [n=166]	4.8	9.0%
	9.0	7.8%
30代男性 [n=167]	8.4	11.4%
	7.8	6.6%



水省はこのほど、農業物価指数（10年基準）を公表した。それによると、農産物価格指数、畜産物以外の全種類に比べ減少し、全品目で前年より低価格化した。特に、米の農産物価格指数が前年に比べて影響した。一方、農産資材価格指数は上昇した。このように、農家の負担が増加することが分かった。

6割「料理をするのが楽しい」

料理とお弁当に関する調査

いものを聞いたところ、「玉子焼き」が63・3セントもつとも高く、次いで

農産物価格指數前年より減少

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場 キャベツ移植適期幅拡大 機械定植可能、生産にも影響なし

年内どりキャベツ栽培は定植適期苗に達しても、長雨、台風等で定植できない場合があるため、当初の計画よりも収穫時期が遅れたり減収する場合もあり、契約取引上のリスク要因となることがある。

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場は、リスク要因の対策として、年末から1月に収穫するキャベツの老化苗の回避とそれに対応した栽培法や低コスト・良質苗生産および気象の影響を受けにくい肥料制限苗（徳島県立農林水産総合技術支援センター農業研究所開発）生産・利用技術を確立し、育苗日数の異なる「肥料制限苗」の機械移植適性と品種適応性について検討した。

肥料制限苗とは、元肥を含んだ育苗培地（セルトレイ）に播種して、追肥（液肥等）を与えず、水のみを与えて育苗したもの。

同支場は、鹿児島県の主力品種「T532」を用いて、市販の育苗用培土を128穴セルトレイに充填後、同一日に播種し、播種後2週間頃から葉色が落ちないように液肥を与えながら育苗した「慣行苗」と、播種後2週間頃からの液肥は与えない（葉色が落ちても）

で水のみで育苗した「肥料制限苗」を用いて全自動移植機での移植適性を比較した。育苗日数は、どちらも25日、35日、40日に分けて比較を行った。また、肥料制限苗生産におけるかん水回数による影響も調査した。調査項目は、草姿、植付姿勢など。

その結果、かん水回数の違いで生育、苗質に差はなかった。「肥料制限35日苗」、「肥料制限40日苗」の草姿は、慣行25日育苗した苗の状態を維持したままかややコンパクトになった（表1）。

「T532」「秋まき中早生」「夢ごろも」「夢舞台」の機械移植における植付姿勢を調査した。「T532」の植付姿勢1（畦面に対し、セルが2分の3以上の深さで植えられている状態）以下の割合は、「慣行25日苗」の88%に対して、「肥料制限35日苗」は86%と同等であった。「肥料制限40日苗」は77%でやや劣るもの、機械移植適応性は高かった（表2）。

また、同じ日に定植した「T532」の苗でキャベツの結球重（結球した部分の重さ）の比較も行った。

その結果、「肥料制限48日苗」は「慣行26日苗」より初期生育は劣るもの、後半（1月下旬）には生育差はほとん

どなくなり、

両方とも1.8kg程度の重さ

になった。同

一播種日の慣

行苗と肥料制

限苗の結球重

（球肥大）は

同等であった

（図）。

同支場は、

通常育苗では

機械移植に適

応する育苗日

数の適期幅が

狭いが、肥料

制限苗は、育

苗日数が長く

なっても（35

～40日）草姿

が慣行25日苗と同等でコンパクトであり、適期幅が広くなるとしている。

本成果の活用面・留意点として、肥料制限苗生産において、かん水回数の違いで生育、苗質に差はなく1日当たり1回のかん水でも肥料制限苗の生産が可能。肥料制限苗（35日、40日育苗）の定植後の初期生育は、慣行苗よりも遅れるため、定植予定日の3～4日前から液肥を施用すると活着と初期生育を促進できるとしている。また、肥料制限苗を利用することで、定植不可能な廃棄苗（通常育苗での大苗）発生の

表1 肥料制限苗生産におけるかん水回数と生育

育苗日数	かん水回数(回/日)	茎長(cm)	第2葉		葉身長(cm)	葉色SPAD値	地上部乾物重(g)
			葉長(cm)	葉幅(cm)			
35日	2回	3.7 ab	6.9 a	3.4 a	3.1 ab	27.1 ac	0.16 a
	1回	3.3 a	6.7 a	3.3 ab	3.0 a	28.1 a	0.15 a
40日	2回	4.0 b	6.8 a	3.2 b	3.2 b	23.3 b	0.19 b
	1回	3.6 ab	6.8 a	3.3 ab	3.1 ab	25.6 c	0.19 b
25日 (参考)	2回	3.6 -	7.7 -	3.9 -	3.1 -	34.9 -	0.10 -

注) 1. 供試品種:「T532」、葉色:SPAD値、(ミノルタの葉緑素計-502で測定)

2. 播種日:35日、40日は12年8月24日、25日(参考)は12年8月20日

3. 符号: Tukey 検定により異英小文字間に5%水準以下で有意

4. かん水1回:午前中(9時頃)に1回、かん水2回:午前9時頃と午後2時頃の2回

表2 機械移植による植付姿勢

年度	品種名	育苗法	育苗日数	植付姿勢(%)					植付姿勢1以下の割合
				0	1	2	3	4	
12年	T532	慣行苗	25日	86	2	0	12	0	88
			35日	12	31	19	26	12	43
		肥料制限苗	40日	機械移植不可能					-
			35日	70	16	1	7	6	86
13年	夢ごろも	肥料制限苗	40日	62	15	11	7	5	77
			秋まき中早生	36日	93	8	0	0	100
		肥料制限苗	39日	82	3	8	6	1	86
			36日	83	13	0	2	1	96
13年	夢舞台	肥料制限苗	39日	88	3	5	5	0	91
			36日	83	14	0	3	0	97
		肥料制限苗	39日	75	10	11	4	0	85

注) 1. 植付姿勢と指数

指標 正常 2/3入る 1/3入る 定植なし 欠株ミス

2. 播種日: 8月20日

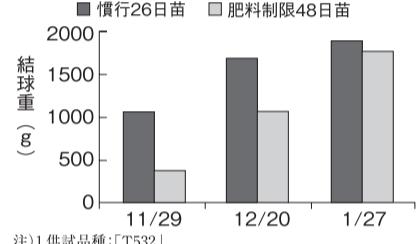
表2 機械移植による植付姿勢

注) 1. 供試品種:「T532」

2. 播種日:慣行苗:10年8月26日 肥料制限苗:10年8月11日

3. 定植日:10年9月21日

図 同一定植日の時期別結球重



回避や慣行の育苗法よりかん水回数が少なくなることにより、育苗管理のコスト削減も期待できるとしている。

多くの品目で需要量減少 冬春野菜等の需給ガイドライン

農水省はこのほど、「15年度冬春野菜等の需給ガイドライン」を公表した（表）。わが国の主要な野菜について、毎年、次期作の夏秋野菜および冬春野菜の需要量、供給量、作付面積に関するガイドラインを策定しているもの。

同省がおおむね5年ごとに策定・公表している「指定野菜の需要及び供給の見通し」や直近の需給動向を参考にし、15年10月～16年9月に出荷される野菜19品目について策定した。

冬野菜などの需要量が13年産に比べもっとも増加すると予測されるのは、「秋冬だいこん」の2.0%増で、次いで「ほうれんそう」の1.5%増、「冬にんじん」の0.6%増。

供給量増加の予測は、同品目が1、2、3位を占め、それぞれ2.0%増、1.5%増、0.5%増となっている。

国内供給量増加の予測は、「ほうれんそう」が4.4%増とともに高く、次いで「冬にんじん」の2.8%増、「秋冬だいこん」の2.0%増。

一方、需要量が13年産に比べても減少すると予測されるのは、「春夏にんじん」の8.3%減で、次いで「冬春トマト」の8.1%減。

にんじんの

8.3%減で、次

いで「冬春トマト」の8.1%

減、「たまねぎ」の4.7%減。

供給量減少の予測も同品目が1、2、3位を占め、それぞれ8.3%減、8.1%減、4.7%減となっている。

国内供給量減少の予測は、

「冬春トマト」が8.1%減とともに大

きく、次いで「たまねぎ」が5.7%減、

「春夏にんじん」が4.6%減。

温州みかん予想生産量増加見込み

15年産温州みかん、りんご適正生産出荷見通し

農水省が公表した「15年産温州(うんしゅう)みかん及びりんごの適正生産出荷見通し」によると、予想生産量は、温州みかん、りんごともに需要量を下回る見通し。同見通しは、わが国の主要な果樹である温州みかんおよびりんごについて需要に即した生産と計画的な出荷を図るために策定したもの。

温州みかんの需要量は92万tと想定する一方、生産面では、表年に当たるが、生産量が隔年で増減する隔年結果の幅が小さくなっているこ

とから、予想生産量は90万tの見込み。裏年だった14年産の生産実績と比べ2万t程度増加する見込みとなっている。予想生産量が需要量を下回るため適正生産量は90万tとした。農家の自家消費分などを除いた適正出荷量は81万tで、うち生食用72万t、加工原料用10万t（果汁用9万t）とした。

同省は、生産者や出荷団体などは、道県段階および産地段階等で生産出荷目標を策定し、計画的な生産出荷に取り組むよう求められている。

また、近年の消費者の嗜好を踏まえれば、低品位果実では安定した価格は望めないことから、高品質果実の生産に力を注ぐことが重要であるとしている。

新潟県畜産研究センター 泌乳中後期 稲発酵粗飼料4割給与 生乳のビタミンE含量向上

新潟県畜産研究センターは、稻発酵粗飼料を有効活用することにより、抗酸化能を有するビタミンEの一種である α -トコフェロール等の機能性物質が豊富に含まれる生乳の生産技術を開発するため、2試験を実施した。

試験1は、生乳中のビタミン類等の機能性成分を解明するため、県内酪農家11戸を対象に調査を行った。購入粗飼料給与区1区 {チモシー乾草「TM区」(4戸)}、自給粗飼料給与区4区{イタリアンライグラスサイレージ「IR区」(2戸)、トウモロコシサイレージ「CS区」(2戸)、稻発酵粗飼料「RWCS区」(2戸)、稻わら「RS区」(1戸)}の5区に分け調査した。

調査は、年間4回(3ヶ月毎)実施した。調査項目は、給与飼料、乳成分率、生乳中 β -カロテン濃度、生乳中

α -トコフェロール濃度とした。

調査の結果、 α -トコフェロール濃度は、RWCS区でRS区およびTM区に比べ、有意に高かった(図1)。また、 β -カロテン濃度は、IR区およびCS区がRS区に比べ高かった。

試験2は、稻発酵粗飼料等を活用することで生乳中の機能性成分含有率に及ぼす影響を解明するため調査した。泌乳中後期の経産牛6頭を供試し、供試飼料の40%を稻発酵粗飼料とする「RWCS区」、イタリアンライグラスサイレージとする「IR区」、購入チモシー乾草とする「TM区」の3区を設け、3区×3反復(ラテン方格法)で実施した。なお、稻発酵粗飼料は糊熟期から黄熟期に収穫し、予乾せずサイレージ調製した。

試験期間は、1期21日間とし、予備

試験14日間と本試験7日間で実施した。調査項目は、体重、乾物摂取量、乳量、乳中 β -カロテン濃度、乳中 α -トコフェロール濃度、乳成分率とした。

1日4回に分けて分離給与を行った。試験の結果、体重、乾物摂取量、および乳生産には各区間に差はなく、主な粗飼料源の違いによる影響は認められなかった。生乳中の α -トコフェロール濃度は、RWCS区がIR区およびTM区に比べ、有意に高くなかった(図2)。

同試験場では、地域産稻発酵粗飼料の活用により、購入チモシー乾草に比べ飼料費低減が可能であるとともに、イタリアンライグラスサイレージに比べ、抗酸化作用を有することから生乳中の品質維持効果等による高付加価値化につながり、収益向上が期待できるとしている。

今後、泌乳最盛期の前期牛の試験と

図1 県内酪農家の給与粗飼料別生乳中 α -トコフェロールおよび β -カロテン濃度

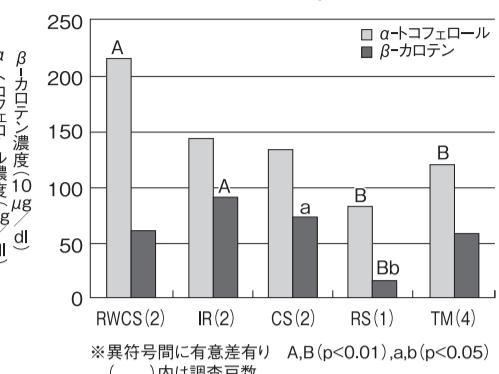
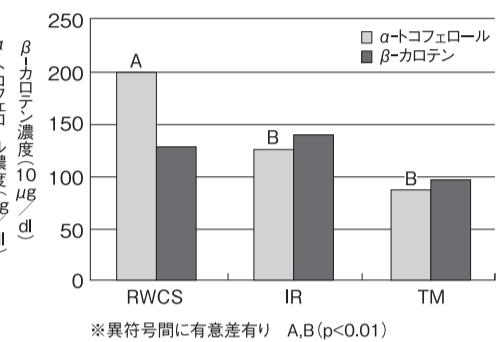


図2 飼養試験における生乳中 α -トコフェロールおよび β -カロテン濃度



経産牛 AI後に黄体ホルモン剤を装着 繁殖成績改善で収益アップ

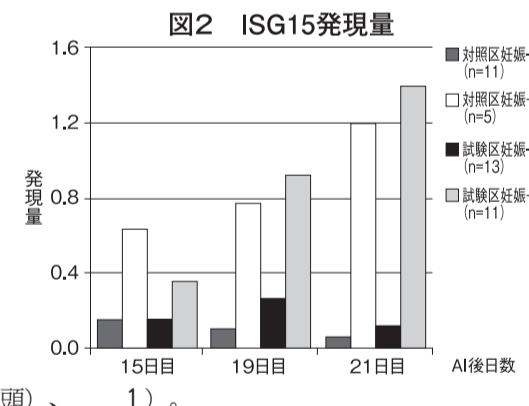
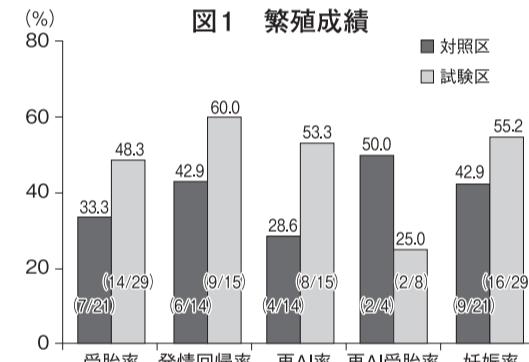
乳用牛の繁殖成績の改善には、受胎率向上と不受胎牛を早期に発見し再度人工授精(以下、AI)などの対応を行うことが重要とされる。また、近年、AI後に早期の黄体ホルモン濃度と胚の発育には関係性があることがいわれている。

福井県畜産試験場は、AI後に早期の黄体ホルモン濃度を上昇させ、胚の発育を促進するとともに、不受胎牛の発情発現率向上を目的として、AI後に酪農家でも利用しやすい腔内留置型黄体ホルモン製剤(以下、CIDR)の装着・除去が繁殖成績に及ぼす影響を検討した。

試験は、乳用経産牛50頭を供試し、無処置の「対照区」(21頭)、人工授精後5日目～19日目にCIDRを装着した「試験区」(29頭)の2区を設けた。AI後21日目以降に発情観察を行い、発情回帰した牛には再度AIを行い、発情回帰しなかった牛には、35日目に超音波診断装置で妊娠鑑定を行った。

調査項目は、受胎率、発情回帰率、再AI率、再AIの受胎率、妊娠率、胚の発育を推察するためのインターフェロン誘導性遺伝子(ISG15)発現量とした。

試験の結果、受胎率、発情回帰率、再AI率、妊娠率(1回目と2回目のAIで受胎した割合)は、「試験区」の方が高い傾向だったものの、再AIの受胎率は「試験区」の方が低い傾向だった(図



ISG15発現量は、19日目以降「試験区」妊娠+が「対照区」妊娠+より高い傾向だった(図2)。

試験の結果から、AI後5日目～19日日のCIDR装着は、受胎率向上だけでなく不受胎の摘発率も向上することから、繁殖成績改善に有効と考えられた。

同試験場の試算によると、50頭を供試する場合、CIDR 1個当たりの費用が約1900円のため9万5000円となり、空胎期間延長にともなう経済的損失は1日当たり2000円(全算入生産費より)とすると、合計31万5000円となることから、約22万円の収益向上が見込まれるとしている。

豚ぶん 堆肥舎 広葉樹の剪定枝で脱臭 アンモニア 硫化水素 9割除去可能

豚ぶんの密閉型発酵処理施設では、高濃度のアンモニアを主体とした臭気が発生するため、簡易で有効な脱臭装置の設置が必要とされている。

この対応策として、埼玉県農林総合研究センター畜産研究所が群馬県・新潟県の畜産試験場と共同で作成した「畜産臭気対策マニュアル」の中から「剪定枝脱臭装置」を紹介する。

脱臭装置の特徴

密閉型堆肥舎内の空気を吸引し、広葉樹の剪定枝を2軸せん断式破碎機で2回破碎(歯幅30mmと6mm)したものを作成した。破碎によってできた剪定枝の微細構造に吸着された悪臭物質を微生物により分解する。

脱臭装置の設置例

同研究所の堆肥舎は開口2.5m、奥行

図 脱臭装置の設置例

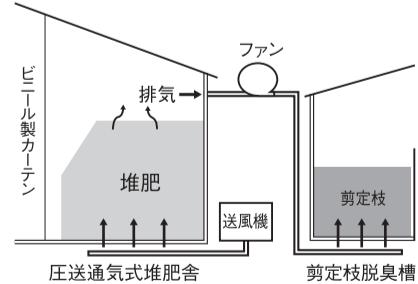


表 装置による脱臭效果

	アンモニア		硫化水素	
	原臭(ppm)	除去率(%)	原臭(ppm)	除去率(%)
平均	142.7	92.0	0.41	99.9
最小	20.0	41.8	0.05	94.3
最大	400.0	100.0	4.00	100.0

き2.5mの広さのものが2つで、それぞれの床面に200mm幅の溝を2本切り、先端にソケットを付けた直径100mmのネトロンパイプを通気管とし圧送用プロアを設置している(図)。

堆肥舎前面にはビニール製カーテンを取り付け、後ろ壁面の吸引口から脱臭槽へ配管し、配管途中に吸引ファンを設置している。

簡易脱臭装置は間口3.6m、奥行1.8m、高さ1.8mの屋根付きコンクリートブロック製で、中央に仕切りを設ける。床の土間コンクリートには各槽2本溝を切り、通気配管として直径5mmの穴を等間隔に24個開けた長さ1.45m直径50mmの塩ビ製パイプを設置する。豚ふんを戻し堆肥とモミガラで水分調整したものを堆肥材料とし、脱臭槽には粉碎剪定枝を高さ1.2m充填する。

運転管理

堆肥材料の温度が60°Cに達するまでは、材料1m³当たり80-90L/分通気し、60°Cに達してからは30L/分通気する。通気量を減らすことにより悪臭発生量が減少し電気料の削減が可能。脱臭槽へは0.8m³/分臭気を送る。

脱臭槽の表層から10~15cmの水分率が40~50%になるように適宜加水する。また、剪定枝の体積が減少した場合、減少分を追加した。

脱臭成績

8ヶ月間調査した結果、アンモニアの除去率が一度低下したものの、減量した分の剪定枝の追加と加水により除去能力が回復し、アンモニアおよび硫化水素を除去することができた(表)。

乳用牛 戸数・頭数とともに減少続く 畜産統計(15年2月1日現在)

農水省はこのほど、「畜産統計(15年2月1日現在)」を公表した。それによると、乳用牛と肉用牛の飼養戸数・頭数は、ともに前年に続き減少した。後継者不足に加え、農家の高齢化や配合飼料価格の高騰などによる廃業等が要因と考えられる。一方、両畜種の1戸当たり飼養頭数は、増加傾向がみられた。畜種別の概要は以下のとおり。

乳用牛

全国の乳用牛の飼養戸数は1万7700戸で、前年に比べて900戸(4.8%)減少した(図1)。近年、4%前後の減少傾向が続いている。1戸当たり飼養頭数は77.5頭で、前年に比べて2.5頭(3.3%)増加した。

成畜(満2歳以上)飼養頭数規模別(学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く)にみると、飼養戸数は前年に比べて、すべての階層で減少したが、飼養頭数は、「100頭以上」の階層が前年に比べ増加し、約4割を占めている。

全国の飼養頭数は137万1000頭で、前

年に比べて2万4000頭(1.7%)減少した。内訳をみると、経産牛は86万9700頭で、前年に比べて2万3700頭(2.7%)減少。未経産牛は50万1600頭で、前年に比べて400頭(0.1%)増加した。

地域別にみると、飼養戸数および飼養頭数ともに前年に比べて沖縄を除くすべての地域で減少した。戸数の減少率が高いのは、近畿7.4%、四国7.1%、東北7.0%、中国5.7%、関東・東山5.6%などとなっている。また、北海道では戸数は6680戸で、前年に比べて220戸(3.2%)減少。頭数は79万2400頭で、前年に比べて3000頭(0.4%)減少したが、全国に占める割合は57.8%となり、0.8%上昇した。

肉用牛

全国の肉用牛の飼養戸数は、5万4400戸で、前年に比べて3100戸(5.4%)減少した(図2)。1戸当たり飼養頭数は45.8頭で、前年に比べて1.2頭(2.7%)増加した。飼養頭数規模別にみると、戸数および頭数ともに、すべての

階層で減少した。飼養頭数規模別の飼養頭数割合は、「200頭以上」の階層が約5割を占め、前年と同様となっている。

全国の飼養頭数は248万9000頭で、前年に比べて7万8000頭(3.0%)減少した。内訳をみると、肉用種は166万1000頭で、前年に比べて5万5000頭(3.2%)減少。乳用種は82万7700頭で、2万3700頭(2.8%)減少した。うち、ホルスタイン種他は34万5300頭(前年比6.0%減)、交雑種は48万2400頭(同0.3%減)となつた。

地域別にみると、飼養戸数および飼養頭数ともにすべての地域で前年に比べて減少した。飼養戸数の減少率が高いのは、関東・東山8.3%、中国6.8%、東北5.8%、北陸5.4%などとなっている。地域別の戸数・頭数の全国に占める割合が1番高いのはどちらも

図1 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移

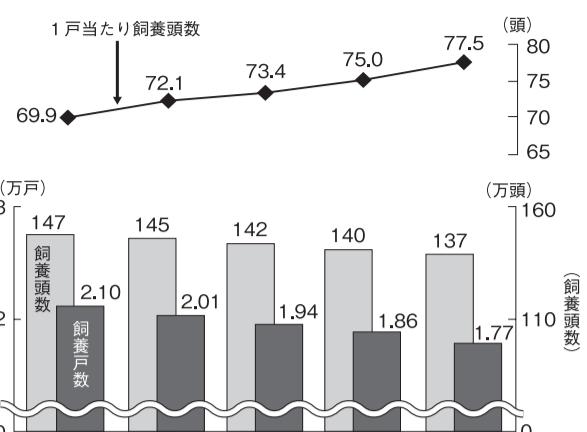
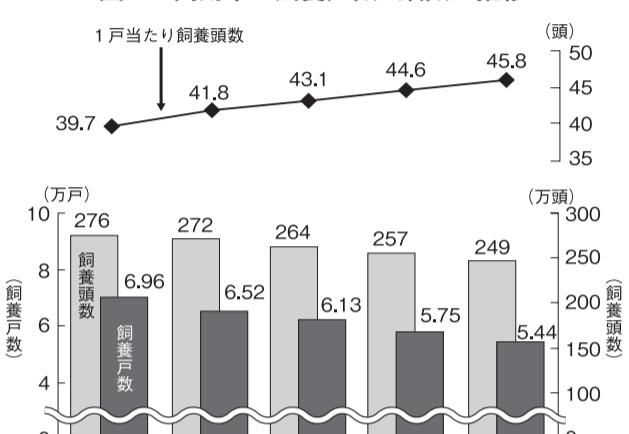


図2 肉用牛の飼養戸数・頭数の推移



九州で、それぞれ43.9%・35.9%となっている。

なお、今年は「2015年農林業センサス実施年」のため、豚・採卵鶏・ブロイラーの調査は休止した。

富山県農林水産総合技術センター畜産研究所

大麦わらサイレージ長期貯蔵可能 乳酸菌添加で発酵品質向上

本紙14年12月号で、富山県農林水産総合技術センター畜産研究所の大麦わらサイレージの黒毛和種への給与試験を紹介した。今回は、同サイレージ調製・貯蔵方法の試験について紹介する。

同研究所は、大麦わらの粗飼料としての飼料特性を把握するとともに、効率的な回収・調製・貯蔵方法を検討するため、3試験を実施した。

試験1は、大麦わら(品種:ファイバースノウ)をコンパインで約10cmに切断して排出された切断わらと切断せずに排出された長わらについて、ロールベーラで回収した場合の収量、回収率、作業効率等を調査した。

試験の結果、牧草専用収穫機で大麦

わらを回収したところ、ロール重差はなかった。しかし、拾い上げロスは切断わらで53%だった一方、長わらでは23%となり10アール当たりの収量が多くなった。4ヵ月間貯蔵したサイレージの発酵品質は、pHおよび乳酸含量とともに切断わらと長わらで差はなかったものの、切断わらでは発酵品質の低下を示す酪酸、たん白質の分解程度を示す揮発性塩基態窒素(VBN)の含量が高く、サイレージの評価基準による評価は不良となった。

試験2は、大麦わらサイレージの発酵品質を向上させるため、調製時に添加する資材の効果を調査した。実験室規模のパウチ法(材料を2cm程度に切

断し、150gをパウチ袋に詰め脱気密封)

で実施した。

試験は、無処理の「無添加区」、乳酸菌製剤①を添加した「乳酸菌①添加区」、乳酸菌製剤②を添加した「乳酸菌②添加区」、乳酸菌と纖維分解酵素を添加する

「乳酸菌十分解酵素添加区」の4試験区を設けた。

調査項目は、4週間および8週間貯蔵後の水分、pH、発酵品質、纖維の酵素分画等とした。

試験の結果、「乳酸菌①添加区」は、「無添加区」と比較してpHは3.8と低く、乳酸含量は1.36%と高くなつた。また、高消化性纖維も、「乳酸菌①添加区」で高い傾向になつた。

試験3は、ロールベーラサイレージへの乳酸菌添加試験を行つた。試験2で最も発酵品質が良かった乳酸菌製剤①を添加し調製した「乳酸菌添加区」、添加せず調製した「無添加区」の2区を設けた。

調査項目は、貯蔵4、8、12ヵ月目開封時の発酵品質とした。

試験の結果、「無添加区」では、貯蔵4ヵ月目のV2スコアによる評価は86で良だった(図)。8ヵ月目以降は酪酸含量が増加し、V2スコアが

乳用牛 依然3割超続く 黒毛和種交配率

日本家畜人工授精師協会は「乳用牛への黒毛和種の交配状況(15年1~3月)」を公表した。黒毛和種を交配した割合は、全国平均33.3%(前期比・前年同期比ともに0.2%増)となった。

北海道の黒毛和種交配割合は、20.8%(同1.2%増、同0.4%増)とやや増加した。

都府県を地域別にみると、東北・九州を除く地域で前期に比べ増加しており、中国四国が6.7%増ともっとも高く、次いで関東が2.3%増、東海・北陸ともに1.7%増、近畿0.7%増などの順となっている。

延べ人工授精頭数は、全体の約8割を占める北海道で24万3730頭(同8.7%減、同4.1%減)、都府県で4万8567頭(同22.1%減、同20.5%減)となった。

図 大麦わらサイレージの長期貯蔵後発酵品質(左:無添加区、右:乳酸菌添加区)

V2スコア評価

有機酸含量(新鮮物中%)

pH

12ヵ月目

4ヵ月目 8ヵ月目

12ヵ月目

4ヵ月目 8ヵ月目 12ヵ月目

畜産物価格見通し

牛枝肉

行楽シーズン入り、出荷減続く
交雑はじり高か

6月は、天候不順などにより、消費がしだいに鈍くなつたことにともない、引き合いが弱まつたことから、相場は軟調に推移し、交雑種および和牛では前月を下回つた。

今後は梅雨明けし、行楽シーズンに入ることから、バーベキューなどでモモやバラの焼き材需要増が期待される。相場は、依然として出荷頭数が伸びない交雑種を中心に、堅調な展開が予想される。

【乳去勢】 6月の大阪市場乳去勢牛税込み平均枝肉単価は、B2が1166円(前年同月比132%)となった。前月に比べて13円上げた(B3は上場なし)。

農畜産業振興機構は、7月の乳用種牛(雌含む)の全国出荷頭数を3万3700頭(同100%)と見込んでいる。輸入量は、4万3800t(同94%)、うち冷蔵品1万8300t(同89%)、冷凍品2万5500t(同98%)と予測している。

長引く円安の影響や現地相場高が続いていることなどで、数量の回復は見込めない。出荷頭数が前年並みと見込まれることから、相場はもちあいと予想される。

【F₁去勢】 6月の東京市場F₁去勢牛税込み平均枝肉単価は、B3が1650円(前年同月比136%)、B2は1537円(同141%)となった。前月に比べ、それぞ

れ24円、56円下げた。

同機構は、7月の全国出荷頭数を1万8600頭(同93%)と引き続き前年同月を下回ると予測している。

需要増が期待できる時期となることから、相場は2・3等級ともじり高と予想される。

【和去勢】 6月の東京市場和去勢牛税込み平均枝肉単価は、A4が2265円(前年同月比125%)、A3は2136円(同129%)となった。前月に比べ、それぞれ15円、21円下げた。

同機構は、7月の全国出荷頭数を4万7000頭(同101%)と予測している。

出荷頭数は前年同月に比べて増加するものの、行楽シーズンに入り、焼き材を中心には活発になると見込まれるため、相場は3・4等級ともに強含みと予想される。

同機構は、全品種合計の出荷頭数は、前年同月を1%下回ると予測している。

向こう1ヵ月の大阪市場の乳去勢牛税込み平均枝肉単価は、B2が1150~1200円、東京市場の税込み平均枝肉単価は、F₁去勢B3が1650~1700円、B2は1550~1600円、和去勢A4が2300~2400円、A3は2150~2250円での展開か。

6月の子牛取引状況

(単位:頭、kg)

ブロック名	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	18	467	202	285	94,560	205,183	468	720
	F ₁ 去	1,555	1,297	313	316	431,222	430,130	1,378	1,361
	和去	1,714	1,623	309	310	680,352	676,899	2,202	2,184
東北	乳去	-	2	-	307	-	92,340	-	301
	F ₁ 去	17	22	295	302	388,864	425,176	1,317	1,407
	和去	1,898	2,375	307	305	674,071	671,622	2,198	2,204
関東	乳去	32	27	269	238	139,050	119,560	517	503
	F ₁ 去	182	265	299	303	418,286	419,561	1,398	1,387
	和去	813	660	287	272	658,441	653,949	2,297	2,407
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	60	83	279	289	640,188	645,111	2,295	2,235
東海	乳去	39	45	292	288	173,907	161,376	596	560
	F ₁ 去	88	102	300	289	414,413	376,867	1,381	1,304
	和去	228	432	261	266	663,901	681,954	2,542	2,561
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	287	389	267	256	794,330	770,462	2,973	3,010
中四国	乳去	111	98	283	278	172,099	162,716	608	586
	F ₁ 去	317	328	293	295	391,412	391,414	1,334	1,325
	和去	751	415	219	290	641,544	645,470	2,928	2,228
九州・沖縄	乳去	23	47	299	278	186,464	161,104	623	580
	F ₁ 去	361	454	298	294	386,849	388,174	1,297	1,322
	和去	6,593	9,298	286	284	682,161	676,393	2,389	2,384
全国	乳去	223	686	278	282	162,895	189,524	586	672
	F ₁ 去	2,520	2,468	307	307	418,051	413,886	1,362	1,348
	和去	12,344	15,275	291	288	678,699	676,278	2,332	2,348

注) (独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。
価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。

関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

霜降り計測装置の開発めざす

病気診断の適用も可能か

産総研

(国立研究開発法人)産業技術総合

研究所は、肉用牛の僧帽筋(カブリ)を対象に、脂肪交雑の程度を生体のまま計測できる装置の開発に向け、試作機の制作に着手した。

現状では、生産現場などで枝肉形質を推定する有効な手段として、超音波画像診断装置でスキャンする手法が主流だが、脂肪と筋肉の混合比率の計測が困難なため、新たな計測法が望まれていた。

これまで同研究所は、「片側開放型」という特殊な形状の磁石を採用したスキャナーを開発してきた。大きな物体でも表面から数cm内部の部位をスキャンできるものの、脂肪交雫のもととなるロース芯(胸最長筋)が牛の体表から10cm以上も深いところに位置するため、計測するのは技術的に難しい。

今日は、牛の体表から約3cm内部の距離にある僧帽筋を対象にしてスキャナーの精度を調査した。そのほかに、サーロイン、ヒレ、赤身、脂肪塊など計17個の牛肉ブロック試料を計測した。

計測の結果、脂肪量と水分量の推定誤差は約10%と高精度であった。また、1試料の計測に要する時間は約10秒と短時間であった。

今後、同研究所は生体のまま、脂肪交雫の計測を検討するとしている。また、開発した装置は脂肪交雫の計測専用ではなく、牛の筋炎といった病気の診断などにも適用の可能性があるとしている。

豚枝肉

夏の行楽で焼き材需要が強まり、相場は堅調か

6月の東京市場税込み平均枝肉単価は、上物が591円(前年同月比89%)、中物は566円(同88%)となった。前月に比べそれぞれ64円、71円上げた。天候不順で末端消費は弱かったが、依然として全国的に出荷頭数が少なく、堅調な相場展開となつた。

農水省食肉鶏卵課は、全国出荷頭数を7月は131万3000頭(前年同月比98%、過去5年平均比100%)、8月は123万9000頭(同101%、同95%)と予測している。

農畜産業振興機構は、7月の輸入量

堅調な枝肉相場で需給がひっ迫し、高値続くか

【乳素牛】 6月の素牛価格(左表)の全国1頭当たり税込み平均価格は、乳去勢が16万2895円(前年同月比116%)、F₁去勢が41万8051円(同126%)となつた。

前月に比べ乳去勢は2万6629円下げ、F₁去勢は4165円上げた。素牛の絶対量不足などから依然として相場は高値で推移した。

今後も、堅調な枝肉相場や素牛不足が解消される気配がないことなどから、需給はひっ迫が継続すると見込まれ、両品種とも相場は強もちあいの展開が予測される。

【スモール】 6月の北海道主要市場1頭当たり税込み平均価格は、乳雄が9万825円(前年同月比150%)、F₁雄が22万100円(同118%)となつた。前月に比べ乳雄は1万5591円、F₁雄は1万

4855円上げた。取引頭数は、乳雄、F₁雄ともに前月に比べ増加しており、それぞれ前月比138%、120%、前年同月比では127%、143%となつた。両品種とも前月に比べ取引頭数は増加したものとの、価格は一段高となつた。

今後も、スモール出荷頭数の回復は見込めず、需給がひっ迫し、一部の需給に対応できないことが予想され、相場は強含みで推移するか。

【和子牛】 6月の和子牛価格(左表)の全国1頭当たり税込み平均価格は、67万8699円(前年同月比117%)で、前月に比べ2421円上げた。需要が低迷する時期ではあるが、堅調な枝肉相場に加え、素牛の絶対量不足が続き、価格を押し上げた。

今後も、足元の堅調な枝肉相場や慢性的な素牛不足で需要は根強く、当面、下げ幅は限定的なことが予想され、高値相場が続くか。